

第4回築川流域懇談会のための資料

雨で川の流れが早くなると、魚たちは一斉に上流を目指して移動を始めます。引田用の堰などの障害を乗り越えたり、水面高く飛び跳ねたりする姿を見れば、魚にとって大切なことは「水かさがあればいい」「水量が安定していればいい」などと言う短絡的な発想ではなく、雨がもたらす新鮮な酸素を含んだ流れや、自然が作る増水と渇水のサイクルなどではないかと思います。

【完成後5年が経過した早池峰ダムの下流では】

「ダムが出来てからというもの、魚はさっぱりいなくなった。昔は無かった中州が目立つようになった。」地元の方からはこのようなお話を聞きました。



以前は、稗貫川のアユを目当てに多くの釣り人が訪れたそうです。それがここ2～3年でほとんど釣れなくなり、

稚魚を放流しても餌の苔がないため大きく育たないと言います。

水かさが一定量に調節されることは景観にも影響を与えます。川が持つ草木の成長を抑制する作用が無くなり、川岸は鬱そうとした茂みに変貌します。

「前は川に降りるのは造作もなく泳いだりしたものだが、今では荒れ放題。こんなに草が茂っては川に降りることも困難だ。行政は何もしてくれないし、人手もないからほったらかしだ。」と別の方は言うておられました。

【築川にこのような将来をお望みでしょうか？】

洪水対策のため水位を落とした網取ダムにゴムボートを浮かべる姿を見ました。現在のダムの姿しか知らない方なら気にならないのですが、築川のすがすがしい清流の姿に慣れた目には、緑色に濁った湖面は異様な光景です。



網取ダムと山を堺に隣り合わせ

の築川。ダムを造れば、将来はきっとこのような姿になるでしょう。

網取ダム管理事務所には、見学に訪れた子供達の感想文が展示してあります。

僕は今まで身近にあっていながらも余り知らない網取ダムのことを勉強してきました。最初に湖をボートで一周してみました。ダムの中はゴミやルアーなどが一杯浮いていて、とてもびっくりしました。それにブラックバスを捕獲するための物があり、ダムの中がこんなにもなっていたことに驚きました。

未来の子供達のために築川だけは清流を残してやりたいとは思いませんか。

【不特定用水は必要か？】

今回配付された資料には、維持流量設定の指針として 動植物の保護 漁業 景観 流水の清潔の保持が揚げられていますが、これらはダムと共存できず、ダムを造ること自体が環境の完全な破壊を意味します。

早池峰ダムには築川ダムを上回る 4,800,000m³ もの不特定容量がありますが、現在の姿を見る限り環境保全のためにまるで役立っていないようです。

【魚の産卵に必要な水位 30 cm を確保するという理由は妥当でしょうか？】

これも人間の一方的な物差しであるとしか思われません。魚を餌にする鳥にとっては水かさが減って餌を探しやすい時期なども必要であり、川の水位の高低は人間の判断だけで変えるべきではないと感じます。

自然の河床はコンクリートで馴らしたような一律で平らなものではありません。場所によっては淵のような深いところやごつごつした岩の間、落差の大きい所など、魚たちは自分で生息しやすい場所を見つけそこで生活するはずです。

維持流量を無理に確保しなくてもサクラマスは今年も変わらず根田茂川上流まで遡上しています。

【これまでの治水の考え方にも問題があったのでは？】

治水対策だけを優先し、闇雲に川幅を広げ川底を平らにしてきた結果が現在の状況を作り出してしているように思われます。

環境にも配慮した川づくりが望まれる今、川の一部を深くして魚が移動しやすくなる工夫をするなど、発想の転換によって環境を保全することは可能ではないでしょうか。

【維持流量の設定は妥当か？】

懇談会資料 6 ページには、河川課が定める維持流量を下回る日数が記されていますが、平均すれば葛西橋地点において 1 年で約 50 日、小屋野地点において約 80 日間、水の少ない日があることとなります。この状況が 35 年間も続いているのであれば、これはもう築川のごく自然な姿であるとはいえないでしょうか。

【水利流量は不足しているのか？】

盛岡市浄水課に問い合わせたところ、S48 年の沢田浄水場稼働以来、取水に支障を来したことは一度もないとのことでした。

水利組合からの聞き取り調査からも、米が不作になるほど水に困った経験はないようですし、現況のままでも問題はなさそうです。

この状況から鑑みて、水利流量が不足することはさほど心配せずとも良いが、取水後の環境にできるだけ負担をかけないためにはどうすべきかということが課題であるといえます。

【沢田浄水場の取水量を減らすことは可能です。】

築川において、取水による環境の負荷を減らす最上の方法は、沢田浄水場の取水量をこれまでより減らす努力をすることではないでしょうか。

現時点で沢田浄水場からの配水エリアは4浄水場で最も広く、そのため利用率が年々増加しています。それに比べ他の3浄水場は居住人口の減少に伴い利用率が低下しています。

	米内	中屋敷	新庄	沢田
H15 年度施設利用率	65.1%	61.9%	71.8%	78.8%
H16 年度施設利用率	63.9%	61.1%	70.7%	80.3%

仮に米内と中屋敷の利用率を10%増やせば1日約5,400m³の配水量となり、これを上手に使えば築川ダム5,000m³/日の根拠は失われ、沢田浄水場の取水による環境への影響も軽減されます。

【盛南開発地区への対応も現況水源で可能です】

配付資料によれば、盛南開発地区の水需要増加への対応は新庄浄水場からの配水だけでは賄えないため、築川ダムによる沢田浄水場の増強が必要だと言いますが、これは事実ではありません。

現在建設中の不来方橋（盛岡駅南西）には、新庄からの配水管が設置されており、1日10,000m³の水を盛南地区に供給することが可能になります。これは盛岡市が盛南開発に見込む人口増加分に十分対応できる供給量です。

盛岡市南部地区の増加需要量(盛岡市資料より)	H27	H37
盛岡南新都市周辺の増加需要量 (m ³ /日)	750~1,600	1,500~3,400
その他の区画整理等の増加需要量 (m ³ /日)	1,060	2,120
合計 (m ³ /日)	1,810~2,660	3,620~5,520

新庄エリアへの補給は、遊んでいる米内・中屋敷分で可能であり、4浄水場の不均衡は是正されるので、緊急時リスク対応の点でも優れています。

【浄水コストについて】

盛岡市は、沢田浄水場の浄水コストが盛岡市の4浄水場中、最も安価で効率的だと言いますが、築川ダムの建設理由を裏付けるほどの額ではありません。

年間660万円はあくまで計算上の値であり、ダムにより水質が悪化した場合軽減額はこれより減少します。(薬品代、新たな設備の導入。)	新庄浄水場1m ³ 当たりの浄水コスト	沢田浄水場1m ³ 当たりの浄水コスト
	5.67円	2.04円
	1年間のコスト軽減額 (約6百60万円)	
	3.63 × 5,000m ³ /日 × 1年(365日) = 6,624,750	

た場合軽減額はこれより減少します。(薬品代、新たな設備の導入。)

そのうえ、御所浄水場が稼働すれば、築川ダムは必要性なくなります。

最大のコスト削減は取水事業撤退(事業負担額19億9千500万円)でしょう。

【稼働率 90%を超えることも理由になりません】

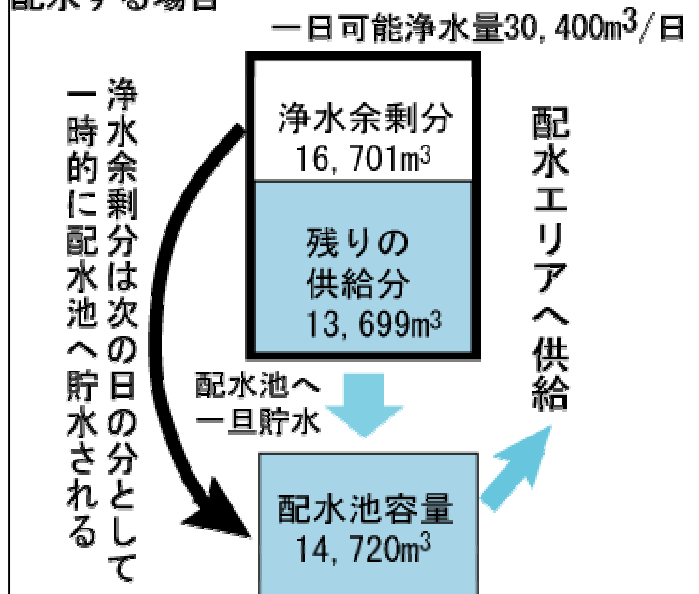
配付資料には、沢田浄水場の夏場の稼働率が 90%を超えるために設備の増強が必要だと言いますが、これも理由になりません。

「配水池」という浄水場にある設備は、夏場のような供給量の飛び抜けて多い日に対応するためのものです。

水道施設設計指針・解説（1990）

「配水池は配水量の時間変動を調整する機能を持つとともに、異常時は、その貯留量を利用して需要者への断水の影響をなくし、あるいは軽減するという大きな役割を持っている。」

沢田浄水場から28,419m³/日（稼働率93.5%）配水する場合



配水池の効果により、たとえ稼働率 100%の日が連続したとしても、川に水があるかぎり配水に困ることにはなりません。

平成 6 年には、沢田浄水場の稼働率が 100%を超える日が連続してありましたが、配水に支障を来した事実はありません。

	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4
浄水量	30845	32550	30825	31914	30568	29402	28231	30655	30310	29733
総配水量	31334	31786	31159	30953	30177	28561	30761	30285	30391	30785
稼働率(%)	103.1	104.6	102.5	101.8	99.3	94.0	101.2	99.6	100.0	101.3

【岩手県内市町村公共事業評価委員会の判断は妥当か？】

市町村公共事業評価委員会で取水事業が事業継続の答申を得たことが、あたかも岩手県民の承諾を得たかのような書き方ですが、これには納得できません。

現在築川ダムの治水面を審議している「大規模事業再評価専門委員会」では、県民意見を募集（パブリックコメント）するなど、県民の声を事業評価に反映しようとする姿勢が伺えます。これは事業費を負担する納税者への配慮として当然のことでしょう。

しかるに、岩手県内市町村公共事業評価委員会では、市民の考えを評価に反映させる余地は全くなく、市民不在のまま審議が進行しました。

これは、委員の一人からの発言「市民の声がうるさいからと言って審議を継続するのはいかなものか。」でも明らかです。

このようにしてなされた事業評価に、どれだけの価値があるのでしょうか。

利水について

【築川ダムの水は必要か？】

盛岡市の現有水源は 178,500m³/日であり、平常時だけでなく 1/10 湯水などの緊急時にも十分対応できます。(H16 年度最大 1 日配水量 101,450m³/日)

ところが盛岡市水道部は、「雫石川水系が水源汚染で使用不能になった時のみ 4,000m³/日程不足する。」と説明し、その場合の想定例として「御所ダムにタンクローリー車が落下して、御所浄水場と 8 km 下流の中屋敷浄水場が同時に使用不能になる」ケースを掲げています。

これまでダム貯水池が水源汚染で使用不能に陥ったという事例は、全国・全世界でまだ一度もありません。

また、御所ダムには貯水池水位別に選択取水が可能であり、これはダム計画者がダム建設の利点として必ず口述するものです。

さらに、仮に上流の御所浄水場が使用不能に陥ったとしても、汚染源が下流の中屋敷浄水場に到達する前に対応することは十分可能ではないでしょうか。

このような想定を認めれば、災害リスクの想定はどこまでも限界が無くなり、どのような想定をしても良いこととなります。(例：テロによる浄水場爆破など)

【矢巾町もダムは要りません】

矢巾町の水需要が増加した場合、盛岡市南の流通センターが所有する水源を矢巾町の水源として取り込むという取り決めがあり、築川ダムからの取水が無くても矢巾町が困ることはありません。

また、矢巾町の平成 15 年度の最大給水量は 1 日 7,949m³ であるのに対し、現況配水能力は 1 日 12,800m³ であり、人口増加への対応も現況で十分可能です。

築川ダム取水後に係る費用 5,000 万円の大半は、矢巾町までの連絡管に費やされます。盛岡市と矢巾町の合併の可能性がなくなった今、この費用が本当の盛岡市民の利益につながるのか、もう一度確認する必要があります。

【盛岡市・矢巾町のこれまでの負担金は返還を求めることが可能です】

盛岡市・矢巾町が取水事業から完全撤退した場合、不特定容量の見直しなども含め、事業費は大幅に削減されます。

昨今、人口の減少傾向や水需要の低下などによりダムなどの利水事業に参加していた事業主が撤退する事例が増えています。

そのような状況に対応するために河川法施行令が改正され、計画途中で事業主が参加を取りやめても、建設着手前であればそれまでの負担金の還付が可能になりました。

この事実は、岩手県内市町村公共事業評価委員会では隠されたまま審議が行われました。

【地下水・表流水は不安定水源か？ダムは安定水源か？】

国土交通省河川局による「水マネジメント懇談会」では、「近年、年間の降水量のバラツキが大きいことからダム等が計画された当時の開発水量を安定して供給できないなど、水供給の実力が低下」する傾向があるとしています。

今年、湧水で取水不能になった四国の早明浦ダム周辺では、ダム完成後ため池が次々と埋め立てられ緊急時対応が困難な状況を行政自らが作り上げていったそうです。ところが、ダム以外の水源を持つ周辺市町村では、それほど深刻な状況にはなりませんでした。

【築川の水源汚染時例は、ダムでは防げませんでした。】

築川ではこれまで2回、油流出による取水制限がありました。

発生日時	場所	断水戸数	断水時間
平成9年8月5日	川目第4地割	約7000世帯	17時間30分
平成15年1月23日	川目第5地割	74件	4時間

2件ともダム予定地下流～取水場上流で起きており、たとえダムがあったとしても断水を防ぐことはできなかったでしょう。

築川流域には水道水に頼らず井戸水を使用している地区が多いため、もしもダムの水の供給エリアが広がっていたならば、被害は一層拡大したはずです。

早池峰ダム・網取ダム下流の住居者からの聞き取り調査では、ダムができれば下流の井戸水が濁って飲み水に使えなくなるという意見が聞かれました。

現在の井戸水を捨てて、お金のかかる水道水を引いてもらうことは、流域住民にとって本当に良いことでしょうか。

【ダムの水の冷たさがイネの生育に影響】

網取ダム下流では、代かき期に田に入れる水が以前より冷たくなり、春先のイネの育ちが悪くなったといえます。長い目で考えれば光熱費の点でも生活者への負担は重くのしかかります。

【早池峰ダムの水は今だ使われる見込みがありません】

早池峰ダムでは、大迫町の水道水として1,000m³/日が確保されていますが、人口増加が見込めず今だ利用されていません。北上の工業用水21,600m³/日も同様で、県企業局には早池峰ダム分の水が余っています。

築川ダムの未来も同じ結末になることは明らかです。無理にダムを造り、環境を破壊し、借金を増やして、私達は未来の後継者達になんと説明したらよいのでしょうか。

築川のため、盛岡市や岩手県の将来のためにも、ダムによる取水はやめるべきです。